



地域活動を通じて
自分や家族の顔を
覚えてもらいたんです！

川尻精霊流しの準備に携わった
森川貴史さん
川尻小PTA（愛育会）

PROFILE 現在の住まいは西区ですが、奥さまが経営する店が川尻にあることから、娘・愛子ちゃんも川尻小に通学。会社員として勤める傍ら、土日や祝日を利用してPTA活動などにも参加。



家族そろって精霊流しの準備作業に参加するなど、「地域愛」に満ちた森川さん一家。ゆくゆくは住まいも川尻に移す予定です

自ら関わることで 地域とのつながりも

私を含め、30～40代は仕事も家庭も大変。「きついことや面倒なことはいや」というのが正直なところ。にもかかわらず、森川さんは積極的に地域と関わることで自分や家族の顔を知ってもらえきっかけになればと、ポジティブに捉えているのが素晴らしいですね！私も、地域の中で何かできることを探してみようと思います。

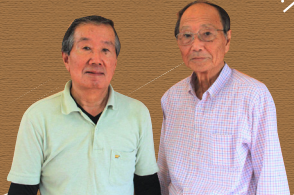


探検隊メンバー
徳永 裕介さん

地域行事やその準備が若手との交流の場にも

今回、実行委員会からの呼び掛けに、多くの地域の若手が応えてくれました。作業が早く進み頼もしいだけでなく、地域のベテランと若手の交流を図るいい機会になりました。ボランティアで地域に貢献する活動は、とても気持ちのよいもの。今後も、仕事のストレス発散も兼ねて参加してほしいですね(笑)。

川尻校区10町内自治会長
（精霊流し部会長）
米満 吉重さん



川尻校区自治協議会会長
玉置 勇一さん

「頼りにしてるばい！」

まちづくり参加者に聞く「やって良かった！」

ワタシもやっています！

2018年
10月12日号
掲載

伝統行事に世代を超えて 取り組んだことでより一層、 地域への愛着が湧きました！

地域の伝統行事として親しまれている、南区川尻の精霊流し花火大会。例年、校区の自治会のメンバーを中心に、ダンボールを切り、約2千個の灯籠の台座作りを行っていました。しかし、自治会の高齢化などで作業の負担が増し、行事の開催自体も危ぶまれていました。

そんな中、今年は川尻小PTAや地域の会など、地域の各団体の代表が参加する検討部会を立ち上げ、校区一丸で取り組むことに。初めて準備に関わった森川貴史さんに話を聞きました。

検討部会のメンバーだった川尻小PTA会長から声を掛けられ、ダンボール切り作業に参加することになりました。

自治会の役員の方々は初めてお会いする方も多く、私にとっては「地域行事のお手伝い」というだけでなく、「地域の方々との

顔つなぎ」の場にもなりました。

前回までは準備の大半を自治会の方で行っていたと聞きましたが、長年続く地域の伝統行事を大切に思う気持ちに年齢は関係ありません。今回のように、これまで家族で見に行きただけだった地域の行事に初めて関わり、世代を超えて取り組めたことで、また一段と地域への愛着が湧きました！

私たち30～40代の中には、「地域のため何か役に立ちたい」という気持ちはあっても、「時間が無い」「自分には無理」と思っている人も少なくないと思います。私は、仕事が終わりの土日など、「無理なくできる範囲」でPTAや地域の活動に参加するようになっています。そうして少しでも地域とのつながりをつくっておけば、皆さんに顔を覚えてもらえるし、それが後々自分にとっての財産になる時がくるはずです。



老若男女問わず約50人が参加して行われた作業。例年2週間近くかかるのが、午前中いっぱいでは終了！



作業には奥さまと娘さんも参加。家族総出で地域行事の準備に取り組み充実した一日を送りました



大きなダンボールを扱うのは、想像以上に重労働。「この枚数を自治会の皆さんだけでやっていたと思うと大変ですね…」

ワタシ
こんなこと
しました！



▲探検隊メンバーも54番札所の「不動明王」へ参拝。熊本市内にいることを忘れるような自然と静寂の中、心身ともにリフレッシュ！

今週の元気モン

たくま八十八ヶ所巡り実行委員会
会長 西山剛志さん

1966年、熊本市生まれ。電気通信工事業社を営する傍ら、積極的に地域活動へ参画し、託麻東小学校PTA会長等を歴任。現在も、たくま八十八ヶ所巡り実行委員会会長をはじめ、校区青少協会会長、熊本県警察署少年補導員、熊本県スキー連盟理事等を務める。妻と長男、次男の4人家族。

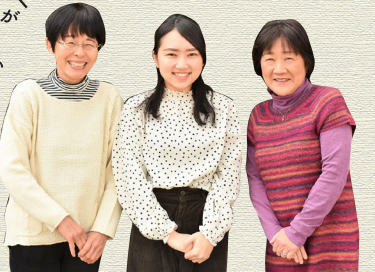
聞かせて！ 地域の元気モン

2018年
8月31日号
掲載

私たちが話を聞きました！

熊本で八十八ヶ所巡りが
できるなんて初めて知りました。
どんな取り組みなのか
興味津々です！

探検隊メンバー
[写真左から]
永田文許さん
濱崎 陽さん
緒方幸江さん



地域に伝わる宝物の価値を磨き、後世に残していきます！

あなたも「たくま八十八ヶ所巡り」に 参加しませんか？

例年4月に開催している「たくま八十八ヶ所巡り」。戸島山、小山山、神園山の「託麻三山」と、その周辺に点在する88カ所の札所を1日で巡るイベントです。全コースを回ると約20kmと、かなりの距離になりますが、もちろん途中リタイアもOK！健康づくりを兼ねて、皆さんも一度足を運んでみませんか。



問い合わせ
託麻まちづくりセンター・公民館 ☎096(380)8119

取材を終えて



御本尊を守っている地域の方々のおかげで巡拝ができるのありがたいですね。 永田さん
四国のお遍路と同じ御利益があるなんて！もっと多くの方に魅力を伝えてほしい。 緒方さん
こうした地域の取り組みで、私たち若い世代の力が必要とされていることに気付きました。 濱崎さん

Q1 西山さんたちが行っている 活動について教えてください

地域団体や行政と連携し、地域の魅力を発見・発信！

託麻地域には平安初期に弘法大師が訪れたという言い伝えがあり、大正15年、託麻三山を中心に八十八ヶ所の札所が作られました。一時は巡礼する人も途絶えましたが、託麻三山会やさまざまな地域団体、行政と連携し、毎年4月の第1土曜日に「たくま八十八ヶ所巡り」というイベントを開催。今では地域内外の老若男女約100人が参加します。実行委員会では、より本物(四国)に近い巡礼ができるよう、お経や御本尊について記した「巡礼の手引き」を作成。一方、東区では、散策マップを作成して、気軽に歩いてもらえるよう情報発信しています。ターゲットのすみ分けを図りながら、多くの方に託麻三山の魅力を伝えています。

Q2 イベント実施やパンフレット作成によって地域に変化は？ 住民の意識が変わり、絆が深まる

最近では、イベント以外の日でも、マップや手引きを片手に散策している人を多く見かけます。また、テレビや新聞等のメディアにも、数多く取り上げられました。校区外の方からも注目されることが地域への誇りや愛着につながり、今では、地域の方々が自主的に札所に花を供えたり、周辺の掃除をしてくれたりするようになりました。校区の環境美化につながっただけでなく、「たくま八十八ヶ所巡り」という共通のキーワードができたことで、よりコミュニケーションが取れ、絆が深まったと感じています。

Q3 今後の取り組みについて教えてください

地域発展のために本物の価値を磨く

四国八十八ヶ所を巡るお遍路と同様に、「行ってよかった」「また行きたい」と言っていただけよう、いずれは結願の証などの要素も取り入れ、現状維持ではなく常に変化をしながら、本物としての価値を磨き続けたいと思っています。毎年4月に行っているイベントには、地域の子どもたちにより多く参加してもらえるよう、学校やPTAにも働き掛けていきます。

※1 1～88番の札所を参拝した人に授けられる証書



元気モンの格闘

地域の魅力維持のため、常に変化し続ける